

# 学習カウンセリングの可能性 — 学習方法の意識化の試み —

大手前女子大学 ゲールツ・三隅友子

## 0. はじめに

教室活動の中で、学習者は教師と様々な接触の機会を持つ。いわゆる日本語学習の教室では、教師から学習者への知識のインプット（学習項目の提示、説明等）、または表現の反復練習に多くの時間が使われている。おそらく、教師の側からすれば、同じアプローチによって学習を行うのにも関わらず、結果、すなわち学習効果という点では決して全ての学習者に同じ効果をもたらされていないことを、教師、学習者共に日々実感している。

言い換えれば、インプットされる内容は確かに一定であっても、学習者がそれらを獲得し、利用可能な知識として蓄えていく（インテイクする）過程には、学習者の個人差が大きく影響している。これまでそして今でも、教育における教師の重要な役割の一つは、学習者に対してある一定の教育目標に見合った能力を獲得させることと言える。そのために教師の技術向上が教師教育の目標として大きな位置を占めていた。が、しかし近年考えられてきているのは、学習者からの学習に対する取り組みについてである。教える者に対する「教える」ことさらには「学ぶ」ことへの問いかけとともに、学ぶ者の「学ぶ」ことへの問いかけとも言い換えられる。それは、教育を一方通行のものとしてとらえるのではなくより双方向のものとして考えることでもあろう。

非常に大まかな捉え方ではあるが、この学習者の学習に対する取り組みに関しては次の三つの考え方が挙げられる。

- (1) 同じ教室の中での学習効果の差、すなわち教師から見て良い学習者とそうでない学習者（good learner と poor learner）の存在に注目し、導かれてきたストラテジーの研究（注1）
- (2) 例えば教室という枠、場を超えて学習者が自らの目標を設定しそれを遂行していく、学習者が自らの学習に責任を持つという、自律学習（self-instruction）の研究（注2）
- (3) 学習者が学習を進める途中に出会う問題（つまずき）を認知し、積極的に解決を図る事を目標とした、認知カウンセリングの研究（注3）

(1) (2) の研究は、言語教育の領域において、(3) はより広い教育の領域において考えられている。本稿は、この三つの研究の根底にある理論を日本語教育へと結び付け、日本語コース内のプログラムの中で、学習者の学習へのより具体的な取り組みの可能性を考えるものである。

## 1. 学習カウンセリングとは

臨床心理学の分野では、カウンセリングを一般に「問題を持つ人を治療する技術」とする定義がある。ここで使う学習カウンセリングとその違いは、まず、第一に取り扱う問題そのも

のが違うという点である。それは、問題児や非行少年、あるいは神経症的な状況を問題として扱うのではなく、学習そのものあるいは学習の側面からの問題である。

学習カウンセリングで取り上げる内容（表1）

（平成5年度文部省補助事業・カウンセリング調査研究報告書

「進学予備教育段階における学習カウンセリング・調査研究」より）

(1) 学習者自身による学習の意識化

1. 日本語学習の目的の明確化、また将来の目標と合致度の確認
2. 学習スタイル明確化
3. 学習者の現在の状態(主観的、客観的にも)の確認
4. 下記の活動を通してさらなる目標状態への構築、取り組み

(2) 学習方法の提示・試行(新しい学習方法を知り、自分の学習方法を見直す)

1. 読む・書く・聞く・話す等のスキルに焦点を当てた学習方法の提示
2. 上記の内容を持った教材の提示
3. 学習リソースの拡大を目指した学習方法の提示
4. 上記の内容を持った教材の提示
5. 個人及び複数でのこれらの学習方法、リソースを使った活動の経験
6. 活動を通して自分自身の学習戦略の確認

(3) 学習相談(学習を妨げる何らかの要因を取り除く)

1. 教室活動の中で困難を感じていることがあるか  
○教師や他の学生との人間関係 ○教材、教育内容のレベル ○その他
2. 学校外の生活で日本語使用に関して困難を感じていることがあるか  
○日本人との人間関係 ○教室内の日本語と実生活の日本語の差
3. 学習を妨げる個人的なこと  
○日本語力の伸び悩み ○その他

次に「治療する」という考えではなく、カウンセリングという過程において、「今までになかった態度や行動の仕方を、新しく学習する」ものである。これらの違いがあるにも関わらず、相対する教師と学習者の関係が、カウンセラーとクライアントの関係に似ていることも述べておかねばならない。それは、上述のような一方的なあり方ではなく、前者が後者の学習(あるいはより良い生活)を促進するような状況や関係を作るものである。さらにそのプロセスも重なる部分が多い。(資料1-図1参照)

日本語学習を進めていく上で表1に述べた問題を取り上げ、それを明確にし自らの解決を図るように援助するプロセスを学習カウンセリングと定義する。

日本語教育機関で学ぶ成人学習者が自己の学習目標に見合ったまた、自分にとって最適な学習方法を採択して実行しているとはいいたい。ともすればコースの中で自己の目標や自己の学習方法を見直すことの手助けを持たずに、一定の期間を修了していることも考えられる。学習の効果やまた学習者の動機への影響を考えると関わりは深い。

またカウンセリング自体の方法としては、(1) 一対一の個別面接 (2) グループや組織への働きかけ (3) 地域への働きかけが考えられる。学校やクラスという集団に対してはこれらの方法の組み合わせがより効果的であろう。

言い換えれば学習カウンセリングは、教育という枠組みの中で、教師と学習者の人間関係のもとに、学習方法を意識化し、学習者が学習に対してより主体的になることを促進する場あるいは活動とも定義できる。

## 2. 意識化 (consciousness raising) に関して

ここでは意識という言葉の概念と意識化に目を向けた研究について簡単に触れる。人間が何かを「意識する」とはどういうことなのか、物象的な感覚ではなく人の心の中の感覚としてとらえられることには異存がないと思う。「意識」には、意図、注意、気づき、発見、awareness (気づいていること)、管理等の様々な側面が含まれている。(注4)

異文化理解においては、異文化との出会い、その際の驚きを伴った発見等が深く対象を理解することの前提となるという。言語教育においては、クラッシュェンのいう、誤用の際のモニター理論、すなわち間違いに気づくということは、やはり意識化の一部と考えられる。またモニターするとは「実際に話した事柄と意図した事柄とを比較し、必要があれば訂正するために自分自身の発話を聞くこと、通常は意味をより明確にしようとする目的のためである」(ロングマン応用言語学辞典より)気づくという言葉が出発点となり、またいろいろな行為につながっていくことを表している。また、教師として教授活動を振り返るといって内省活動も「意識する」ことにもほかならない。

一方、顕在的な学習が潜在的知識としての言語習得に結びつくという考えを追究するものとして長友らのお茶の水チームの研究が存在する。ここでは学習者が文法規則の説明を受けるといって事を意識的学習＝顕在的な学習と位置づけている。この「文法の意識化」とさらにこの学習内容が定着する過程を意識すること「習得過程の意識化」をも含めた研究である。(注5)

本稿ではこれ以上の記述は控えるが、「意識化」に対する概念の定義、そして「何を」意識するのか、「どのような方法で」等に関して言語教育学のみならず、心理学、及びより広い教育学の示唆を受ける必要がある。

## 3. 学習カウンセリングの実際例 - 日本語学校での試み -

### 3.1 調査研究の経過

この試みは文部省補助事業・カウンセリング調査平成5年及び6年の活動の中で実施したものである。(他の活動及び詳細な全体の流れに関しては報告書を参照のこと)(注6)

概略を述べると、平成5年度は日本語学校内で学習カウンセリングの場、時間をコースに設定したが、うまく機能しなかった。そこで、抽出学習者5名に対して学習者トレーニングを行い調査結果をまとめた。(平成5年度報告書参照)前年度の経験をふまえて、2年目は、学校内の特に上級と中級の学習者を対象に継続して調査・研究を行った。(上級の活動に関しては平成6年度報告書に詳しい)ここで取り上げるのは、中級のあるクラスに対して行った活動である。

### 3.2 活動の概要

- 対象学習者 : 中級クラス13名 年齢は20才から30才  
大学・大学院進学希望の就学生(中国・台湾・韓国)
- 活動内容 : (資料2一表2参照)
- 意識化の方法 : 各回の活動毎の振り返りシート (資料3)
- 評価 : 活動自体に関しては学習者の自己評価  
活動の振り返りに関しては学習者の自己評価をもとに教師が分析

### 3.3 分析

クラス活動の中での学習方法の意識化を試みた。このクラスは前年の9月入学者が大半を占めており、初級文法を終えた、漢字圏という比較的まとまりのとれていると教師が判断した集団であった。日本に暮らしながら学習を続けているのにも関わらず、日本人との会話がうまくいかないという問題が挙げられていた。うまくいかないという漠然とした問題を個々により明確にする必要があった。特定できれば、どのように問題解決ができるかは、教師として十分に援助できる部分であるし、学習者自身にもその解決を考えて実行できる部分でもある。一人ずつのカルテを作成し、これを基に個人カウンセリングが可能になると考えた。今回は特別に機会を設けなかったが、教室内外での個人的なアドバイスは可能であった。またクラスというまとまりでの、日本の大学での生活を想定して目標と照らし合わせた、コース内の「会話」の時間の方法の見直しへと向かった事実もある。

活動の最終評価における彼らの記述の中には、以下のものが見られた。(資料4)

- (1) 日本語力に関するもの : ○新聞記事を読んでもっと慣れる ○間違いを原因分析する  
○もう一度文法を復習する ○読んだ情報を発表して練習する ○発音、文法の誤りが分かった
- (2) 日本人との会話ストラテジー : ○もっと機会を作って練習する ○表現を増やす  
○自由に討論する時間を望む
- (3) 話題の選択(知識) : ○日本文化に対しての知識を増やす ○自分の得意な話をする  
○新聞以外の話題にする
- (4) 日本人との会話の機会がない : ○学校の外で日本人と話すように努力する  
○日本人の友人を作る
- (5) 目標の確認 : ○何のために新聞を読むのかが理解できる ○自分から積極的にならなければならない  
なければ何も得られない
- (6) 学習方法 : ○日本語学校のコース中でこのような会話の時間を作る ○言いたいことを日本語で表現したあとすぐに訂正してほしい

このように、同じ活動に対して、全体の好き・嫌いといった評価の違いをはじめ、教師の設定する活動に異存は無いあるいはこのような部分を改善したほうが良いとする態度の違い、またうまく行かなかった部分に対しては実に様々な原因帰属の状況が見られた。新聞をリソースとして自分の学習環境のどこに位置づけられるのかにも差が見られた。

### 3.4 学習カウンセリング調査全体に関して

平成5年度から2年に渡る学習カウンセリング調査は試行錯誤の中で進められた。当初の筆者の考えは次の二点であった。(詳細は平成5年度報告)

- (1)学習者は各々学習についての問題を持っていて、その問題を解決できればより効果的に学習が進む
- (2)学習者は常にその問題を意識しており、カウンセリングの場を設定すれば、個々人の実情に合わせた援助が可能である

(1)の問題に関しては、その問題をいかに特定化し、原因分析にまで至るかという点で、意識化を促す活動を設定し、また言語調査表、アンケート等によって記述することを考えた。

(2)の場の設定に関しては、教室外に設けるのではなく教室内の具体的な学習活動を通して、また集団で問題を考えるようにした。この際、学習者の教育観、学習観を含めた情意的な関わり方が非常に大きな位置を占めていることも感じられた。教師と学習者、学習者同士の人間関係も大きな要素となることが分かる。

意識化を促す活動、今回は日本人との接触も含めた。これは相互交渉であり、一様とはもちろんいえないが同じ活動に対する反応の差、学習者同士の観察による比較から、ある程度は問題は明らかになったといえる。ここからは集団に対してよりも個へ向かうアプローチがより重要になってくる。まさに個々がカウンセリングの過程の後半部分となる。

## 4. むすびにかえて

最後に学習カウンセリングの可能性として考えられることを簡条書きに述べる。

### (1) 日本語教育のコース及びプログラムの見直し

学習者、教師、教育の実施者の三方向からの、現状の教育活動に対する改善を具体的に考えるヒントとする。

### (2) 学習者の学習方法の見直し

成人学習者の場合、日本語が母語以外に最初に学習する言語でない事も考えられる。その際他言語の学習経験を利用し、目的と方法をセットで比較すること、これまでの教育・学習観とも比較する必要がある。

### (3) 海外での可能性

学習者の日本語学習に対する問題がよりよく理解できる存在として母語を同じにする外国人日本語教師の役割が挙げられる。学習者の先輩として既に遭遇した問題をどのように解決したかの策を提示しうる存在でもある。日本人教師と外国人教師の協働でよりカウンセリングが充実すると考えられる。今回は母語による内省の際に、翻訳者の存在が重要であったこともつけ加えておく。

### (4) 学習者の学習に対する責任の喚起

学習者自身が学習の主体であることに気づくことを様々な側面から考えていく必要性がある。

学習者が学習を意識することから始まって個人への対応を見るにはやはり短い期間の試みで

は難しい。日本語教育のコース内に、指導から学習に対する個人及び集団に対する意識化を考えた活動の機会を設けること、そしてこれらの活動のデザインを常に修正しながらシステム化すること、最終的には日本語教育における学習カウンセリングの確立を実現するには、より長い期間の試行と調査を続ける必要があると考える。

注

- (注1) Oxford, R. 1990 "Learner Strategies" Oxford Uni. 及び Wenden, A. 1991 "Learner Strategies for Learner Autonomy" Prentice Hallを参照のこと
- (注2) Dickinson, L. 1987 "Self-instruction in Language Learning" Cambridge 及び Sheerin, S. 1989 "Self Access" Oxford Uniを参照のこと
- (注3) 市川伸一著編(1993)『学習を支える認知カウンセリング』ブレーン出版
- (注4) Jan H. Hulstijn, J.H. & R. Schmidt (eds.) (1994) Consciousness in Second Language Learning, AILA REVIEW 11.
- (注5) 長友和彦「第二言語習得における意識化の役割とその教育的意義」『言語文化と日本語教育』第9号 1995
- (注6) GEHRTZ-三隅友子、吉田智子、平成5年度文部省補助事業、カウンセリング調査研究協力校、カウンセリング調査研究実績報告書『進学予備教育段階における学習カウンセリング・調査研究ー生活環境の場を積極的に日本語学習の場と捉える試み(1)』平成6年度『生活環境の場を積極的に日本語学習の場と捉える試み(2)』

参考文献

イリイチ、I.D. 著、東洋・小沢周三訳、1977.『脱学校の社会』東京創元社  
 小谷英文編著、1993『ガイダンスとカウンセリング』北樹出版  
 鈴木敏正、1992.『自己教育の論理～主体形成の時代に～』筑波書房  
 ルーブル、O.、石堂常世・梅本洋訳、1980.『学ぶとは何か～学校教育の哲学～』勁草書房  
 ロジャーズ、C.R. 著、佐治守夫編、友田不二夫訳、1966.『カウンセリング』岩崎学術出版社  
 Scarcella, R.C. & Oxford, R. 1992. "The Tapestry of Language Learning" Heinle & H.

資料1

臨床カウンセリングと学習カウンセリングのプロセス 図1

臨床 カウンセリング	クライアント来談 導入	開始・同盟形成	自己理解の 展開1	自己理解の 展開2	終結 フォローアップ
段階	関係作り	問題の明確化	企画ー実施	評価	
学 習 カ ウ ン セ リ ン グ	学 習 者	学習の振り返り	意識化をね らった活動	記録等による 自己評価	学習に対す るメタ的 理解
	方 向	↑	↑相互交渉↓	↑相互交渉↓	↑相互交渉↓
教 師	観察	提示・助言		観察	カウンセリング評価 新たなカウンセリング活動へ

(表の臨床カウンセリングの部分は小谷英文のカウンセリング基礎過程図による)

資料2-表2

'94年 プロジェクトワーク《新聞を読もう》活動表

中級Aクラス

◆ねらい:
⇒ 新聞を教材とする。(どのように利用するかを考える)
⇒ 新聞記事をもとに日本人と話す。(自分の話し方について考える)
◆期間: 1994年5月6日 ~ 1994年5月27日

※日本人参加者は、中級Aクラス担当教師以外の日本人を指す。教師養成講座修了生/現職日本語教師が日本人参加者としてクラスに入った。

回	日付	活動内容	日本人参加	教材(ノ/ハ) / 留意点(☆)
(1)	5/6 (金)	◇新聞の構成 TOPIC: 永野法相発言	なし	ノ 朝日/読売の各紙
(2)	5/10 (火)	◇新聞の種類 P.124 ~ P.126 ◇日本人に聞く → 新聞について	○ 6人	ノ 日本語新聞の読み方 ノ 反省シート1
(3)	5/13 (金)	◇新聞記事の基本 P.8 ~ P.23 ◇日本人(K・Hさん)に質問する。 ◇新聞記事を選んで読む。[次回への準備]	○ 1人	ノ 日本語新聞の読み方
(4)	5/17 (火)	◇見出し、5W1Hをまとめる。 ◇(H林とT緒)と一緒に読む。	○ 6人	☆ 学習者は、日本人に記事 を説明する。 ノ 反省シート2・3
(5)	5/20 (金)	◇『表現文型』 ◇5/24の準備 TOPIC: “大学生の私語”について → 日本人(H・Sさん)に質問する。	○ 1人	ノ 聞き取りシート4
(6)	5/24 (火)	◇日本人から記事を紹介してもらう。 → 記事「ウルトラマンSOS」について Sさん発表	○ 7人	☆ 日本人は、学習者に記事 を説明する ノ 聞き取りシート5 反省シート6
(7)	5/27 (金)	◇これまでの活動を振り返って ◇TOPIC: 振り返り(母語でもよい)	なし	ノ シート1~6 ノ シート最終版

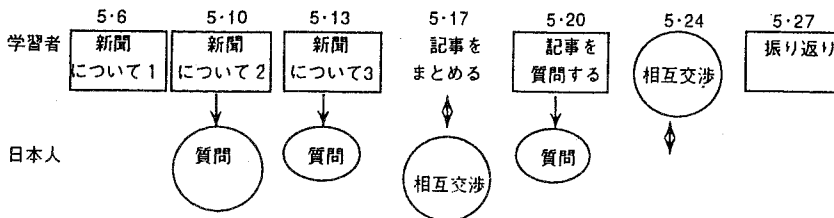


表3

意識化を考えた活動	シートの確認項目その他
(1) 新聞から得た情報を即時に日本人に確認する	5段階尺度及び理由質問
(2) 新聞の記事を自分で選ぶ	自由記述
(3) 日本人に内容を伝えるために読む	自由記述
○見出しから内容を推測する	百分率での自己評価
○ポイントをつかんでまとめる	5段階尺度及び理由質問
(4) 日本人に記事の内容を説明し意見交換する	5段階尺度及び理由質問
(5) 日本人から記事の説明を受け理解する	5段階尺度及び理由質問
○理解するために様々な方法で質問する	自由記述
(6) 説明を受けた記事内容を基に意見交換する	5段階尺度及び理由質問
(7) 活動を振り返って自己評価する	過去3回の接触場面の比較
○各回毎にシートを使って振り返る	計5回
○全体を通して振り返る (母語使用)	上記の5回分のシートを使って

資料3

【学習者】 M・J (韓国/男)

日付	シートNo.	質問	コメント
5/10 (火)	1	5 ◆どうすれば、もっとうまく話し合いができるでしょう。	⇒ やはり、日本人と話すチャンスが多ければ、もっとうまくできると思う。
		6 ◆これから日本人と協力して新聞を使って学習します。何かよいアイデアはありませんか。	⇒ 新聞を使って勉強するのは漢字ばかりで難しいから、その日新聞の中で一番わかりやすい記事をとって勉強する方がいい。どんな記事もいいですから。
5/17 (火)	3	4 ◆どうすれば、もっとうまく話ができだと思いますか。	⇒ 選んだ記事の内容をほとんど理解した後説明したらよかったと思う。
		5 ◆次回は日本人からある記事を紹介してもらいますが、何か考えがありますか。	⇒ できるだけ硬くない記事がほしい。
5/24 (火)	6	1 ◆5/10と5/17と5/24のうち、一番話し合いがうまくいったのはいつですか。また、それはなぜですか。	⇒ 5/24.. 内容がやさしかったし、特に韓国のことについて話し合ったから。
		2 ◆どうすれば、もっとうまく話ができだと思いますか。 (今の自分より理解はいいから教てもいいから)	⇒ 日本語の会話、心の準備をしていないうちに、急に日本人に話しかけられたときに困る。やはり、日本語について勉強するしかないと思う。
		3 ◆5/6から「新聞を読もう」というテーマで学習をしました。あなたは何が一番良かったと思いますか。	⇒ 新聞記事について、授業中に急に日本人を中に入れて質問したこと。 (5/13、5/20)
		4 ◆これから、どんな方法で学習をしたいと思いますか。	⇒ 今日の形が一番いいと思う。



1994. 5. 10

1. 誰と話をしましたか。  
川村 先生

2. 新聞についてどんな話をしましたか。  
あなたの質問  
先生は毎日新聞を読むとき  
どんな面が読めますか  
見出し  
日本人の答え  
日本人の質問  
実は毎日新聞を読まないで、  
よければ新聞が読めますか。  
今日の新聞の中でどれか  
一番公正だと思えますか。

3. 新聞について今日の話し合いがわかったことは何ですか。  
産経新聞は一番よいです。

4. 今日の話し合いがうまくできましたか。(○印をつけてください)  
とてもよかったです ほとんどよかったです ほとんどよかったです ほとんどよかったです

5. どうすれば、もっとうまく話し合いができるでしょう。  
日本人と食料の機会が多ければうまくいけると思っています。

6. これから日本人と協力して新聞を使って学習します。何かよいアイデアはありませんか。  
漢字の意味はだいたいわかるけど、文法はむづかしいと思えます。今から新聞の中で一番初まりやすい文章をとり  
取り替えてください。

1994. 5. 17

1. 誰と話をしましたか。  
岡田先生

2. 記事についてどんな話題を話しましたか。  
まず私は新聞について先生に説明します、  
それから先生と一緒に読み、そしてわがが  
友い葉だ文法は先生に聞いて、最後に  
私は自分の感想を話します。

3. 今日の話し合いがうまくできましたか。(○印をつけてください)  
とてもよかったです ほとんどよかったです ほとんどよかったです ほとんどよかったです

(1) あなたは記事の内容が何%くらい理解できていましたか。(70%)  
ほとんどよかったです ほとんどよかったです ほとんどよかったです ほとんどよかったです

(2) よく記事の説明、自分の感想を伝えることができましたか。  
ほとんどよかったです ほとんどよかったです ほとんどよかったです ほとんどよかったです

4. どうすれば、もっとうまく話ができたいと思いますか。  
言葉をもっと理解して、うまい言がてると  
思っています。

5. 次回は日本人からある記事を紹介してもらいますが、何か考えがあり  
ますか。おもしろいところと理解しやすいところがいいと思います。

難しい内容を盛んでいいですが、コンピュータが専門から、その程度の  
ことを読んでもいいんじゃないか

1994.5.24

1. 今日の話し合いがうまくできましたか。(○印をつけてください)

とてもよくいった うまくいった よう あまりうまくいかなかった うまくいかなかった

(1)あなたは記事の内容が何%くらい理解できていましたか。( )%

(2)うまく記事について分からないことを聞くことができましたか。

とてもよくいった うまくいった よう あまりうまくいかなかった うまくいかなかった

(3)うまく記事についての自分の感想を伝えることができましたか。

とてもよくいった うまくいった よう あまりうまくいかなかった うまくいかなかった

(4) 5/10 と 5/17 と 5/24 のうち一番話し合いがうまくいったのはいつですか。( )

それはなぜですか:

2. どうすれば、もっとうまく話ができだと思いますか。  
(今の自分に足りない力は何でしょうか。そこから考えても構いません)

3. 5/6から<新聞を読む>というテーマで学習をしました。  
あなたは何が(どのような活動が)一番良かったと思いますか。

4. これからどんな方法で学習をしたいと思いますか。

1994.5.27

※7回にわたる授業を振り返って、  
良かったこと、悪かったこと、こうしたほうが良いと思うことを自由に、  
自分の言葉(韓国語、中国語OK)で書いてください。※  
(授業以外にできそうなこと、やりたいことがあれば教えてください)